

2021 US OPEN JUNIOR

Tournament Report 2021.8.29~9. 7



◇参加者

- ・男子選手 田 中 佑（湘南工科大附属高等学校）
- ・女子選手 五十嵐唯愛（四日市商業高等学校）
- ・ 古 賀 賢（全国選抜実行委員会 会長）
- ・団 長 岸 徹（全国高体連テニス専門部 部長）
- ・コーディネーター・コーチ 上 田 篤（アメアスポーツジャパン）

8月29日（日）

13時に田中選手・古賀会長を除く3名がホテルに集合。その後、羽田空港に行きPCR検査を行う。17時に結果を確認するため再び羽田空港へ。結果は3名とも陰性、まずはひと安心。今回の遠征は、例年であれば事前合宿から始まるが、今年は、コロナの影響で出発前日に集合となる。

8月30日（月）

8時ホテル出発。8時30分出国ゲートにて手続き。日本旅行の担当の方、木脇・宮崎両氏による取材と協賛のJALよりCAの見送りを受け保安検査場そして出国審査を受け搭乗ゲート進む。やはり、コロナ禍で出国する客は、まばらであった。

11時出国。

時差の関係で同日10時30分ニューヨークJFK空港に着く。入国審査を終え、出迎えの坂本さんと合流。JFK空港は、羽田空港と比べ人も多くコロナ禍という雰囲気が感じられず入国もスムーズであった。

ホテルチェックインまで時間があつたので車にてUSオープン会場のコロナパークやバッテリーパーク・グランドゼロなどなるべく密にならない屋外の観光地を見学する。16時30分ホテルチェックイン。

8月31日（火）

8時ホテル出発。9時30分からニュージャージーにあるバン・ソーン公園テニスセンターで地元のジュニアを指導している奥田達巳コーチと娘の暁子コーチに指導してもらった。古賀会長と田中選手が今日の朝空港に着くので、午前中は五十嵐選手のみであった。数年前までITFの試合を回っていたという暁子コーチとの練習は、時間的には短かったが、五十嵐選手にとって多少疲れが残る中いい調整ができたように思う。

11時30分古賀会長と田中選手が到着し、午後の練習に参加した。田中選手は、疲れも見せず積極的に練習していた。

午前1時間、午後2時間程度練習しホテルに戻った。

○今日の感想

五十嵐唯愛

午前中は久しぶりに身体を動かしたことや時差に慣れていないことから身体が思うように動きませ



んでした。一度休憩を挟んで迎えた午後は、午前より身体も慣れ、集中して練習することができたと思います。

田中 佑

今日は、アメリカに着いた初日ということもあり、時差ぼけがすごく感じられて少し身体が重かったのですが、それも初めての経験だったので面白かったです。

今日のコートは少しボールが伸びてきたので、しっかり足を動かしてスイングが振り遅れないように意識しました。また、練習に暁子さんという方が一緒にしてくださって、「とても足が動いていて見習わないといけないな」と思いました。とても笑顔が素敵なお方でした。また明日も頑張りたいと思います。



9月1日（水）

7時30分ホテル出発。クレデンシャル登録のためのPCR検査を受けるため、オフィシャルホテルであるインターコンチネンタルホテルに向かう。例年に無いことなので、少し時間がかかったが、無事検査終了。明日の朝までにメールで結果が送られるとのこと。あいにくの雨のため一度ホテルに戻り、午後ニュージャージーにあるフォート・リー・ラケットクラブという室内コートに移動し2時間練習をおこなった。

五十嵐選手は奥田暁子コーチと、田中選手は奥田達巳コーチが指導しているジュニアのイーサン・オームとヒッティングとゲームをおこなった。五十嵐選手は、身体の切れも良くなり本来のプレーが見られるようになってきた。田中選手は、全日本ジュニアの好調さ

を維持して、随所にいいプレーが見られた。

○今日の感想

五十嵐唯愛

雨のためインドアコートの練習になりました。時差にも慣れ、集中力高く練習できたので2時間の練習時間が早く感じました。海外の選手の速いボールのようにインドアコートで速いボールを体感できたので有意義な練習ができて良かったです。

田中 佑

今日は、アメリカ2日目ということもあって時差ぼけはほとんど無くなり、身体も軽くほとんどいつも通りのプレーができました。インドアでプレーということもあり、感覚が合わせやすく集中して出来たと思います。そして今日は韓国の男子（16歳）と一緒に練習してくれてすごくいい経験になりました。

9月2日（木）

9時よりクレデンシャル登録のためインターコンチネンタルホテルに行く。各自のメールにPCR検査の結果が送られてきたが、五十嵐選手に結果が送られて来ていないというハプニングもあり時間がかかった。何とかIDカードをもらったが、例年と違い予選のIDカードでは、USオープンメイン会場に入ることができないらしく、ここでもコロナの影響で制限されていた。

11時40分シャトルバスに乗り予選会場であるケアリーリーズテニスセンターへ向かう。12時30分から13時30分と与えられた短い時間であったが、2人ともいい調整ができたようだ。14時30分練習会場移動しUSオープンメイン会場に向かう。明日の試合の結果によってはメイン会場に行く時間がなくなることも予想されたので短い時間であったが、チケットを買い入場する。錦織選手の試合を隣のスタンドから観戦し、買い物をしてホテルに戻る。

○今日の感想

五十嵐唯愛

午前は大会のエントリー、午後は予選会場練習した後、本戦会場に行きました。大会のエントリーにはさまざまなチェックがありましたが、どれも徹底されたものではなく、日本と海外の違いを感じました。午後は、自分から声をかけてカナダのDasha Plekhnova選手と練習をしました。スピンのかかった相手を後ろに下げるボールが多く、パワーのある相手でした。日本にこのようなプレーをする選手は少ないのでとても良い経験になりました。本戦会場は、テーマパークのような雰囲気で大勢の人がテニスを観に来ていてテニスがアメリカの人々の身近な存在であることを実感しました。明日の試合は自分の得意な多彩なプレーで相手を崩していけるようにベストを尽くしたいと思います。



田中 佑

今日は予選の会場で練習をやりました。練習相手を探して3人目でスロベニアのセバスチャンがOKしてくれました。2メートルありそうな身長から打たれるストローク、サーブは今まで体験したことのない球でした。その球はとても伸びて、重い球でした。しっかり打ち返すためには、早く構えて地面の力と相手の球の威力を利用するべきだと感じました。明日は今日の球の感覚を忘れずに向かっていき、本戦に上がれるように頑張りたいと思います。



9月3日（金）大会初日

8時ホテル出発。インターコンチネンタルホテルよりシャトルバスにて会場であるケアリーリーズテニスセンターに向かう。いよいよ本番、最初に試合に入ったのは、五十嵐選手で、相手はメキシコのアレハンドラ・クロス（第11シード）。第1ゲーム、相手の動きが硬くいきなりのブレイクチャンス。長いゲームになったが、相手のここという時のサーブが良く、チャンスをものにできずにキープを許してしまった。2ゲーム目、五十嵐選手も無難にサービスキープ。その後相手は徐々にリズムも良くなり、強いサービスからポイントしサービスキープ。五十嵐選手も得意のバックハンドのダウンザラインからポイントしたり積極的にネットに出たりと多彩な攻撃で攻めたが、甘く入ったサービスを逃さず攻めてきた相手にブレイクされ最終的に1-6、2-6で敗退。内容的には、五十嵐選手も持ち前のバラエティー豊かな攻撃で相手からポイントを取っていたが、チャンスでの相手サーブがとても良く、チャンスをものにできなかった。残念だったが、最後まで攻める姿勢を崩さず、いい試合だった。

続いて男子田中選手が香港のコールマン・ウォン（第2シード）と対戦した。第2シードとの対戦であったが、田中選手もひけをとらずお互いサービスキープでのスタート。最初にブレイクに成功したのはウォン選手だった。ウォン選手のサービスが非常に良く、このままファーストセットが終わるかと思ったが、田中選手が粘りを見せ、ブレイクバック。5-5までは良かったが、相手がワンチャンスをものにしてファーストダウンした。セカンドに入ってもお互い素晴らしいプレーを見せシーソーゲーム、しかしこのセットも最後のワンチャンスをものにした、ウォン選手がとり、結局5-7、5-7のストレートで敗れた。五十嵐選手・田中選手とも高校生の代表として素晴らしいプレーを見せてくれた。

○今日の感想

五十嵐唯愛

今日は、昨日練習したカナダのDasha Plekhanova選手と朝練習した後、メキシコのアレハンドラ・クロス選手と対戦しました。積極的にボレーに出て攻撃的な姿勢をとることができていましたが、1-6、2-6で敗退した。ミスの数やサービス力、ボールの深さが相手との差だと実感しました。この貴重な経験を忘れず、今後も邁進していきたいと思います。

田中 佑

今日は予選の1回戦でした。まず、試合前の練習相手を捕まえるために声をかけたのですが、まさか8人に断われとても大変でした。1回戦の相手はコールマン・ウォンでした。相手はサーブもとても良く、リターンゲームはあまりチャンスが回ってきませんでした。その数少ないチャンスを思い切ってできなかったのが悔しかったです。やはりそれはストロークのベースの力がないと落ち着いてできないのでストロークのベースをもっと上げ、大事なところで自信を持っていけるようにしなければならなかったと感じました。この経験を生かしてまた頑張っていきたいと思います。

9月4日（土）

試合がなくなり帰国のためのPCR検査を受けに行く。昨日勝っていれば、予選2回戦の予定であったため、午前と午後に分かれての予約であった。そのために、USオープンメイン会場に行くこともできず、買い物等で一日を終える。

9月5日（日）

USオープンの会場に行き、試合を観戦した。アームストロングスタジアムでは、シュワルツマンの試合を観戦。シュワルツマンは、小柄な体であるが動きが速く観客も大きな声で応援していた。結局ファイナルセットまでいったが、敗れてしまった。まったくコロナを感じない雰囲気があった。USオープンらしい雰囲気を感じ、これが世界という体験ができ、有意義な時間だったと感じた。

最後の夜は、古賀会長主催の夕食会。

9月6日（月）

いよいよ出国、今回はコロナ禍の中での海外遠征で、さまざまな規制や不安の中大会に参加しました。選手は、そんな中でもしっかりと日本の高校生代表としてふさわしい試合をしてくれました。

9月7日（火）

無事帰国、最後のPCR検査を終え無事全員陰性。空港にて解散会をおこない、それぞれ帰宅する。今回の遠征は、例年と違い大変な状況の中での遠征でした。急遽同行を引き受けていただいた古賀会長には、ニューヨークでもいろんな場面で助けていただきありがとうございました。同行いただいたウイルソンジャパン上田様、全国選抜高校テニス大会実行委員会、全国高体連テニス専門部、ウイルソンジャパン、日本航空はじめこの遠征にかかわっていただいたすべての方に感謝申し上げます。

U S オープンジュニアを経験して

三重県立四日市商業高等学校
五十嵐 唯愛

この度はコロナ禍の中、U S オープンジュニアに出場させていただき、ありがとうございました。全国高体連テニス専門部の先生方、アメアスポーツジャパンの方々をはじめとする多くの方々のサポートのお陰で、貴重な経験をすることができました。

アメリカに到着すると13時間の時差の影響で初日、2日目は睡眠を十分にとることができず、体調管理が大変でした。2日目、3日目は現地の日本人コーチ、奥田暁子さんと練習させていただきました。試合前にやりたい練習をさせてくださったのでとても良い調整をすることができました。大会前日と当日の会場練習では、自分から声を掛けてカナダ代表の選手と練習しました。

試合は予選1回戦でメキシコ代表の選手に、1-6、2-6で敗退してしまいました。相手の選手はスピンのかかった深いボールを中心に攻守ともにミスの少ないテニスをする選手でした。1番の差になったと思うところはサーブです。速いサーブでサービスエースを取られることや、スピンのかかったサーブでベースラインより後ろでリターンさせられることが多くありました。ですが、私自身バックハンドのダウンザラインやネットプレーで積極的に攻撃し、ポイントをとることができていたと感じていました。スコア以上に内容は競り合うことができていたと思います。このような経験は初めてで、ポイントを取ることができてもなかなかゲームを取らせてくれないところに違いがあったと実感しました。これからの練習ではサーブ練習の時間を増やして攻撃的にすることと、大事なポイントを取ることができるように攻守のバランスの取れたプレーをすることを課題にしたいと思います。

試合が終わってからはトッププロの試合観戦やニューヨーク市街を観光させていただきました。試合観戦では5セットの激闘でしたが、選手のプレーに没頭していて時間の経過がとても早く感じました。また、市街の観光では、教科書やインターネットで見たことのあった光景を実際に目にして、海外に興味を持つきっかけになりました。

私は今回の遠征で、テニス面、生活面のどちらにおいても視野が広がったと実感しています。何事にもコミュニケーションが必要であると再確認したことから世界の共通言語である英語を習得したいという気持ちが芽生えました。この素晴らしい経験を人間として成長できるように生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

USオープンジュニアを終えて

湘南工科大学付属高等学校
田中 佑

まずはこの遠征をサポートしてくれた方々本当にありがとうございました。

私はこの遠征に参加できて、すごく成長するために必要なことをたくさん学べたと感じました。

テニス面では、USオープンジュニアの予選に出させてもらい、プロの試合も見せてもらいました。戦って感じた事はまず、リターンの正確性がいかに大事か、でした。外国人は日本人とは違い、体格が良く、スピードが速いと頭で分かっているけど取れないサーブがきます。大事な場面、ラケットには当たっていたが、そこでのリターンミスによりチャンスを逃してしまいました。こちら側はサーブだけで取れる確率が少なく、そういった大事な場面でリターンミスをしてしまうことによって相手を乗せてしまい、やられてしまいました。プロの試合を直で見ると、当てているだけで深くリターンしたり、攻撃したりしていました。すごく勉強になり、これから普段の練習でもっとリターンを磨こうと思います。

次に動きの簡素化です。プロの試合を見て私とは大きく違うことが、フットワークや構えに無駄がなく、とてもはやいことでした。私の場合3、4歩でちょこちょこ動くところをプロは、1、2歩でボールまでスムーズにはいっています。さらに、構えがはやいことで、ラリーのスピードが上がっても対応できていました。私が今回試合した時も、ラリーの中であまり余裕がなく、焦ってミスやチャンスボールを与えていたのでこれは絶対帰ってから伸ばしていきたいと思います。

生活面でもたくさん学びました。まず、自分から発信すること。受け身では何も掴めず、チャンスを逃してしまいます。今回の遠征では練習相手を探す時、自分から声をかけることで、2メートルを超える人と練習することができました。すごく大事な経験になりました。何事も自分の意見をはっきり言うことができる人間になろうと思いました。

次に、常に上を見ること。現状に満足しては成長はできないとは思ってました。でもちょっと上の世界を見ても成長もちょっとだけで、それならぶっ飛んだ上の世界をみるべきだなと思いました。そうすればもっと面白いことが待っていると思うからです。最後に失敗を考えてから行動しないこと。行動する前に、こうなったらどうしようと思っ
ていては自信を持ってその行動ができなくなってしまいます。それでは、いい結果が待っているとは思いません。失敗を考えて行動するよりも、成功を考えてどんどん難しいことをやっていけば、もっと人生が良くなると思いました。

今までの私は、普通の暮らしで普通に生きていきたいと思っていました。けれど今は、人生一度きりなので、これからは失敗を恐れず、高い目標を持ってテニスも人間性も磨いて、自分なりの最高の人生を目指そうと思っています。この考えを持つだけでなく、持続させなければ意味ないので常に意識していこうと思います。